

保護者のみなさまへ

令和6年11月25日
(2024年)

吹田市立吹田東小学校
校長 三宅 友子

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

- ・全体的に、全国値を下回った。
- ・自分の考えを書くという問題において、苦手意識が強い傾向が見られた。
- ・すべての問題において、無解答率が全国値を上回っている。

●国語《各領域における成果と課題》

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・正しい漢字を書く問いでは、全国値を上回った。

情報の扱い方に関する事項

- ・1つの図から情報を理解することができていた。
- ・最終問題では時間配分が原因であることも予想されるが、無解答率が全国値を上回った。

話すこと・聞くこと

- ・複数のページにまたがる長文問題では、2つの情報を統合して処理することに課題が見られた。

読むこと

- ・最終問題の物語文では時間が足りなかったためか、無解答率が高かった。

●国語科における成果と今後の指導改善のポイントについて

- ・どの問題でも無解答率が高いため、最後まであきらめずに問題に向き合う力を高めていく必要がある。また、日頃から、問題文に目を通し、時間配分や見通しを立てて、自分が解ける問題から解いていく習慣をつけるようにする。
- ・書くことの学習において、書く目的や伝える相手を明確にしたり、友だちと助言し合いながら文章を推敲したりする時間を設ける。また、授業の導入では、教師が図表やグラフを用いたモデルとなる文章を提示し、何をどのように書いていくか見通しを持たせる指導を意図的に行う。書く目的をより強く意識することで、主体的に書き方や構成を工夫して書こうとする意識を持たせる。

●算数《概要》

- ・選択式の問題は全国値とほぼ同じ解答率だが、それ以外の問題では全国値を下回っている。自分の意見を示したり、論理的に説明したりする力に課題がある。
- ・問題文が長くなればなるほど、正しく読み取れていない傾向がみられる。
- ・図形の問題は全体的に正答率が高かった。

●算数《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・工夫して計算する問題に苦手意識が見られた。
- ・除数が1/10になったときの商の大きさについて答える問題では全国値とほぼ同じであった。

図形

- ・概ね全国平均と同じであった。球の問題では、全国値を下回っていたが、円柱の問題や五角柱の問題では全国値を上回っている。

変化と関係

- ・無解答率が高く、速さを求める問題では苦手意識を感じた。特にどちらが速いか判断し、その理由を書く問題では正答率が低かった。
- ・比例を用いて解く方法と、一つ分を用いて解く方法の2種類が同じ割合でみられた。

データの活用

- ・表やグラフなどのデータを読み取って分かることを記述したり、データを活用して設問に答えたりすることに課題がみられた。

●算数科における成果と今後の指導改善のポイントについて

- ・全体的に記述問題の正答率が低く、無解答率も高くなる傾向が見られたため、日頃から自分の考えを文章や図等を用い、わかりやすく説明する時間を確保し、記述して表す力や意欲を高めていく指導を行う。
- ・説明する力をつけるために、自分の考えを友だちに説明する、友だちの考えを理解し自分の言葉で説明する学習を日頃から取り組んでいく。
- ・長文問題でも大事なところを落とさずに読み取れるように読書の時間を確保するなど、読解力向上に努める。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

肯定的回答が全国値を上回った項目

学校に行くのは楽しい
友達関係に満足していますか
自分にはよいところがありますか
読書は好きですか
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
人の役に立つ人間になりたい
困っている人を進んで助けている

肯定的回答が全国値を下回った項目

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）
学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか
新聞を読んでいますか
解答時間は十分でしたか

3 今後の取り組み

今回の調査では、全国的に「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率や挑戦心・自己有用感・幸福感が高く、自分で学び方を考え工夫している。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両方に取り組んだ児童生徒グループは、他のグループに比べて、各教科の正答率や授業の理解度、挑戦心・自己有用感・幸福感が高いという結果だった。

本校でも、学習指導要領の趣旨を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」を具現化するために、各教科の授業では、その単元で身につけるべき資質・能力や「なぜ学ぶのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」の3つの視点を明確にした授業研究を実践している。引き続き研究を推進し、教員の授業改善と授業力向上に努めたい。

また、学力の向上には、子どもたちが興味・関心を持って学習に取り組めるような支援が必要である。そのために、学習した内容が日常生活の中や他の教科の学習との関連で生かされていることが実感できるような場面を意識して設定することや子どもたちが

分かりやすいように具体物を提示したり動画など ICT 機器を効果的に活用したりしていきたい。

ICT の活用には、多くの児童が「分からないことがあったらすぐに調べられる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる」「友だちと考えを共有したり比べたりしやすくする」などの効果を実感している。書くことに苦手意識がある児童も、タブレットで学習の振り返りを作成することや、漢字・計算の練習アプリに意欲的に取り組む姿が見受けられる。

実際のテストでは紙の問題用紙に記述する必要があるため、タブレットの良さを生かしながら、タブレットと紙の双方のメリットや各教科の持つ特性を生かし、児童の自発的な学習や個別最適な学習方法を研究し、今後の授業に生かしていきたい。

ご家庭では

学校での学習の定着には、家庭での学習習慣を身に着けることが大切です。お子さんの学年に合った学習時間を自分で決めて取り組むことができるように家庭で話し合ってみてください。お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましの言葉をかけて下さい。

また、ゲームやスマートフォンの利用の時間について、お子さんの利用状況を把握し、使い方についての約束をお子さんと一緒に考えて下さい。

保護者の皆さまにおかれましては、家庭と学校が連携し、子どもの自立と学びの機会をつくるために、ご支援ご協力をお願いいたします。